

令和 2 年度 県立竜ヶ崎第二高等学校自己評価表

目指す学校像	1 学校・家庭・地域社会が連携協力している、社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校			
	2 確かな学力が育まれ、豊かな心と健やかな体が育てられ、進路希望が実現できる学校			
	3 生涯にわたって学び続け、社会の諸課題に対応して社会を生き抜く力を備えた人材が育成される学校			
	4 商業科、人間文化科においては、社会の発展を担う職業人として必要な資質能力を着実に身につけ、望ましい勤労観、職業観を持った人材が育つ学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ○今年創立 105周年を迎える長い歴史と伝統を受け継ぎ、落ち着いたある学習環境の中で、生徒は明るく伸び伸びとした学校生活を送っている。大学・短大進学者は 20%と横ばいであるが、数年前から看護学校をはじめとする医療系への進学者が増加傾向にある。また、学校幹旋による就職率は 100%を達成している。 ○1年次の国語や数学における習熟度別やTTでの授業展開や、生徒指導における段階的指導の導入により、基礎学力や授業への集中力が向上しつつある。 ○部活動加入率が徐々に向上し入学当初は、50%を超える。しかし、途中で退部するものも少なくない。そのようななかでバスケットボール部を筆頭に運動部・文化部を問わず、実績を残している。 ○商業科・人間文化科においては、資格取得を目標に、各種検定試験合格に向けた熱心な指導が行われ、特に人間文化科では優れた成績を収めている。さらに「いばらきものづくり教育フェア」等の外部イベントにも参加し、本校の取り組みを発表するよい機会となった。 ○りゅうがさきフューチャーセンターの設置および活動により、龍ヶ崎市役所・商工会等との交流を広げることができた。併せて、参加生徒の積極性が高まり、コミュニケーション力の向上が見られている。 <課題> ○My りゅうプロジェクト(一人一人が輝く活力ある学校づくり)を生かし、地域社会との連携を推進、教育活動の活性化を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員研修と実践に努める。 ○基礎学力の定着を図る必要がある生徒が多数入学している現状を踏まえながら、習熟度別やTTでの授業展開、ICTを活用した分かりやすい授業を引き続き行う。 ○生徒の第一希望の進路実現に向けた指導の充実を図る。 ○部活動内容を充実させることで、加入率の向上を図る。 ○保護者との連絡を密にしなが、課題のある生徒の指導を行い、コミュニケーション力の向上を図り、豊かな学校生活が送れるようにする。 ○積極的な PR に努めるとともに、学校だより等での広報の充実を図る。		社会に開かれた学校づくり	① ボランティア活動及び地域の活動への積極的参加 ② 近隣中学校や地域への情報提供と連携強化 ③ 近隣小・中学校との生徒間交流の継続	B
		確かな学力の育成	① 知識・技能の着実な習得を通し基礎学力の向上を図る授業の展開 ② 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善への取り組み ③ 学びに向かう力を高め、人間性を涵養する魅力ある授業の展開	B
		生徒の希望や目標の実現	① 生徒の希望や進路実現支援体制の充実 ② 資格取得試験の合格率の向上	A
		明るく活気あふれる学校づくり	① HR・生徒会活動への支援や学校行事の充実 ② 運動部、文化部への加入率の向上	B
		規範意識の向上および安全教育の徹底	① 挨拶の励行と生活マナーの向上及び服装容儀指導・遅刻指導の徹底 ② 教育活動全体を通しての安全意識の涵養 ③ 個人面談の充実、定期的なアンケート調査の実施	A
		教職員の働き方改革への取組	① ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善 ② 取組についての生徒、保護者、地域への丁寧な説明	A

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国 語	基礎学力の定着に努める。	・生徒の実態を把握し、内容を工夫した授業を展開する。	A	B	・例年の課題ではあるが、効果的で持続可能なT T授業のあり方を形成していく必要がある。 ・平日および長期休業中における進学課外の実施形態や内容について検討していきたい。
		・漢字、ことわざ等の一般常識分野を学習する時間を継続的に設けるとともに、それぞれの学年に応じて小テスト等を実施し、定着を図る。	A		
	個に応じた指導の充実を図る。	・古文、漢文の基礎となる事柄を繰り返し学習させ、定着を図る。	A		
		・1 学年全学科で、T T 授業および習熟度別授業を展開し、個に応じた指導を行う。	B		
	進路に応じた指導の徹底を図る。	・漢字検定の受検者が増えるよう、生徒に働きかける。また、受検者には、課外を通して自己の苦手分野を把握させるとともに、その対策を行い、目標とする級への合格に至るよう支援する。	B		
		・平日および長期休業中の進学課外参加を生徒に呼びかけ、積極的に行う。	B		
地 歴	基礎学力の向上を図る。	・生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。	A	B	・ICT 機器を活用した授業を展開できるよう、授業の構成や年間の授業時数の配分を行いたい。 ・基礎的な知識の習得に向けた課題の設定を考えていく。
		・資料集やワークシートを使用し、身近な教材を取り入れることによって理解しやすい授業を展開する。	A		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を目指す。	・主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。	B		
		・ビデオや画像などビジュアルな手法を授業に取り入れ、考え気付かせる授業を展開する。	B		
	個に応じた進路実現を考えた授業展開を目指す。	・一般常識の見識を高め、大学受験から就職試験まで対応できる力を身につける。	B		
公 民	基礎学力の向上を図る。	・生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。	A	A	
		・インターネットやワークシートを活用し、身近な教材を取り入れることによって理解しやすい授業を展開する。	B		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を目指す。	・主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。	B		
		・新聞などを活用するとともに、ビジュアル教材を授業に取り入れ、考え気付かせる授業を多くするなどの工夫を行う。	A		
	政治的教養を高めるための授業展開を目指す。	・新聞・ニュースなどを活用することで、政治的教養を高められる授業を展開する。	A		

別紙様式2（高）

数 学	数学的なものの見方を身につける。	・授業の展開を工夫し、魅力ある教科指導に努める。	C	B	・ICTの授業活用について、研究する。 ・課外・補習・数学検定の指導の分担方法を工夫する。
		・理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。	B		
	基礎的な知識や学力の定着を図る。	・教科書に限らずプリントや問題集を活用し、十分な演習を行う。 ・課外や数学検定に積極的に取り組ませる。	B B		
	進路実現に必要な指導を行う。	・生徒一人ひとりの進路希望に応じ、個別指導が必要な生徒への指導を行う。	B		
理 科	基礎学力の向上を図る。	・教科書だけでなくプリント等を活用し、生徒達の理解度を確認しながら授業を展開する。	B	B	・今後も授業において実験を行い生徒の興味・関心を育てていきたい。 ・ICTを活用し、動画等も利用し生徒が理解しやすいよう授業を工夫していきたい。
		・ノートやレポートの提出を徹底させる。	B		
		・演習や小テストを実施し、理解を深める。	B		
	関心・意欲を高める指導法の工夫改善に努める。	・生徒実験、演示実験を通して理解と興味関心を高める。また、実験を通して協調性を育てる。 ・グループ活動を通して対話のある授業を展開する。	A B		
		進路実現に向けた指導を目指す。	C		
保健体育	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを理解できるようにする。	・各種目のスキルテストや体力テストを通して、個人の習熟度や運動能力の成長を確認させる。 ・主体的かつ意欲的にスポーツに取り組む姿勢を育てる。	A B	B	・体育時の服装、シューズの履き替え、集合時間など生徒はルールを守って活動できた。 ・今年度も全学年で体力テストが実施でき来年度へつなげることができた。 ・課題であった男子更衣室の清掃を、割当てることにより整備することができた。
		・生活習慣病の予防と運動には大きな関係があることを理解させる。 ・いろいろな種目に取り組ませ、生涯スポーツを見つけさせる。 ・時間やルールを守らせ、自ら進んで活動させる。	B B A		
	生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	・健康の考え方や保持、増進について理解させる。 ・適切な食事、運動、休養及び睡眠などが、健康的な生活習慣に必要なであることを理解させる	A B		
	音楽に関する基礎知識や技能の定着を図る。	・単元ごとに小テストや実技テストを行い、定着に努める。 ・評価の基準を明確にし、目標を持って積極的に取り組む環境を作る。	B B		
芸 術	個の能力に応じた指導をする。	・能力に応じて課題を選択できるよう工夫をする。 ・自分の課題だけでなく学び合いの場を大切にし、体験をとおしてお互いに知識・技能を工夫する。	B B	B	・様々な制限の中で、生徒の意欲を高め、成果を実感できる実技指導のあり方をさらに研究する。 ・ICT機器を活用し、鑑賞や生徒の作品発表などができる環境を整えたい。
	生徒の主体的な活動を促す。	・ペア練習やグループ発表などの機会を多く取り入れる。 ・目標と本時の課題を明確にし、生徒が意欲的に活動するとともに成果を実感できるようにする。	B A		
	様々な形で自己表現する場を設ける。	・段階を踏んで個別・ペア・グループ発表を行い、自信に繋げる。 ・お互いの演奏に対して根拠を持って批評できるように、表現力を高める工夫をする。	B B		

別紙様式 2 (高)

外国語	指導形態や学習形態の工夫を図る。	・ペア活動やグループ活動、ALTとのティームティーチングなどをと おして、生徒自身が英語を使用してコミュニケーションを行う機 会を提供し、お互いが協力し合う学習環境を整える。	A	B	・授業において、リスニングの 強化に取り組めた。 ・通常の授業やALTとのTTで、 授業内においてのペア活動や グループ活動を積極的に行う ことができた。 ・英検対策課外を放課後に実施 し、昨年よりも参加者が増え、 合格者も増えた。
		・ICTを用いたパフォーマンステストや発表活動等をとおして、個 の目標に応じた指導を展開する。	B		
	個に応じた指導を展開する。	・学力上位層の生徒に対して、積極的に進学課外の受講・英語検定の 受検を促し、各生徒の自信に繋げる指導を行う。	B		
		・普段の授業からワークシートや発問のレベルを複数段階設けること で、生徒を飽きさせずさらに上のレベルにあがるような動機付けと 支援を行う。	B		
家 庭	基礎学力の向上を図る。	・生徒の能力に応じた、教材・教具の開発を図る。	A	A	・調理実習においても特別な配 慮を必要とする生徒の対応を もう少し手厚くしていきたい。 ・現状にあった取り組み・実 習・家庭クラブ活動について研 究する。
		・簡単な学習や実技を繰り返し行うことにより、基礎学力の定着を図 る。	A		
		・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行う。	A		
		・TT授業、外部講師や県のものづくりマイスターを利用することによ り、技術の定着を図る。	A		
		・様々なコンテストでの上位入賞を目指す。	B		
	資格取得に努める。	・生徒が各検定に真剣かつ意欲的に取り組めるよう、丁寧な指導を心 がけ、合格率のアップを図る。また、生徒の向上心を培う。	A		
	社会体験学習の充実を図る。 介護実習 保育実習 学校家庭クラブ活動	・自ら進んで考え行動する能力と責任感を身につけさせる。	B		
		・礼儀や丁寧な言葉遣い、挨拶、マナーを身につけさせる。	A		
		・家庭クラブ活動をとおして、地域社会との連携を図る。	B		
		・奉仕活動やエコ活動をとおして、環境問題に関心を持たせる。	B		
情 報	情報活用の実践力を高める。	・ワープロソフトを用いて、文章を作成する能力を身につけさせる。	A	B	・資格取得に向けて意欲的に学 習に取り組ませることができ た。 ・新学習指導要領実施に向け、 指導内容のバランスを工夫す る。
		・表計算ソフトを用いて、基本的な関数機能を理解させる。	C		
		・プレゼンテーションソフトを用いて、情報を適切に表現する力を身 につけさせる。	C		
	情報の科学的理解を深める。	・コンピュータの仕組みと高性能化について理解させる。	C		
		・情報モラルや著作権について理解させる。	B		
		・インターネットの基本的な仕組みを理解し、情報を正しく検索・収 集する力を身につけさせる。	B		
		・資格取得により自信を持たせ、生徒の就業意欲を高める。	B		

別紙様式 2 (高)

商 業	基礎学力の向上を図る。	・学び直しを含めた基礎学力の向上をはかり、生徒の能力に合った授業を展開する。	B	B	・入学時に読み解く力が不足している生徒が多い中、どの様に興味を持ち、理解してもらうことができるかが課題です。 ・資格取得が進路活動に結びつくように支援していきます。 ・「事例探求」学習の導入を検討していく必要があります。
	職業人の育成を図る。	・キャリア教育として職業人に求められる倫理観、マナーや常識を身につけさせ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけさせる。	B		
		・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業や実技の学習をとおして、自ら学び協働的に取り組む態度を養う。	B		
	資格取得に努める。	・生徒の能力に見合った基礎級の合格率向上に努めるとともに、より高度な上級資格の取得を目標とさせる。	B		
		・資格取得により自信を持たせ、生徒の就業意欲を高める。	B		
教務部	学習意欲の向上を目指す。	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の導入を進め、指導方法の改善に努める。	A	A	・今年度の懸案であった令和4年度教育課程の編成を行うことができた。 ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業展開が多くなった。今後は授業検証の機会を設定したい。 ・習熟度別授業に関して、検証の手立てを構築することが今後の課題。 ・昨年度よりも授業におけるICTを活用する教員が増えた。 ・「図書館だより」の敵機的な発行を引き続き課題としたい。 ・図書館を学習の場として利用していけるよう、啓発活動を引き続き行う。 ・放送委員、図書委員の活動機会を増やすとともに、活動の様子をホームページ等で紹介する、
	基礎学力の向上を目指す。	・習熟度別授業の展開や動画資料の活用などで、個に応じた指導の充実を図る。	B		
		・授業時間の確保に努める。	A		
		I C Tの活用を推進する。	・各教室における I C T活用のための環境整備を引き続き図る。		
		・校内研修等を通じて、 I C Tを活用した学習指導の機会を増やす。	A		
		・個人情報管理を徹底する。	B		
	読書に親しむことで視野を広げ、自ら学ぶ姿勢を育てるとともに、社会で必要とされる教養の基礎を身につけさせる。	・書籍や雑誌等のさまざまな情報を収集し、適正な図書の充実に努める。	B		
		・掲示物の工夫や「図書館だより」の定期的な発行により、生徒の興味関心を喚起させ、図書館利用を促進する。			
	図書委員・放送委員を活用する	・図書委員には、日常的なカウンター業務及び文化祭や高教研図書部の研修等に進んで参加させ、図書館運営に主体的に取り組ませる。	B		
		・放送委員には、校内放送や文化祭等に積極的に参加させ、明るく活気ある学校作りに寄与させる。			
	図書館及び視聴覚施設の環境整備を図る。	・生徒が興味を持つような選書の工夫と図書の充実に努める。	B		
		・視聴覚設備の整備に努める。	B		

別紙様式 2 (高)

生徒指導部	基本的生活習慣の確立を図る。	・全職員の協働意識を図り、頭髮及び服装指導の徹底を図る。	B	B	・登下校指導の継続 ・服装及び頭髮指導の徹底 ・授業環境の改善の徹底 ・交通ルール遵守の徹底 交通講話等を取り入れる ・教育相談係の話し合いの場を定期的に持ち、情報等を共有していく。
		・登校指導等を利用し、あいさつの励行に努める。	A		
		・スマホ、携帯電話の使用モラルの浸透を図る。	B		
		・集中して授業に取り組ませるための授業環境の改善を図る。	A		
	いじめ問題の未然防止に努める。	・定期的なアンケート調査や面談を実施し、実態把握と未然防止に努める。	A		
	保護者との連携強化を図る。	・学年と協力し、問題行動があった場合は保護者に来校を促し、学校での状況、指導を十分理解してもらった上で、効果的な指導を進める。	B		
	交通安全の推進、意識の高揚を図る。	・自転車の交通ルール遵守の徹底を促す。	B		
		・バイク通学者の事故未然防止のため、乗車モラルの向上と交通法規の遵守を図る。	B		
		・下校指導を実施し、坂の安全を確保する。	C		
	教育相談の充実を図る。	・問題を抱えている生徒の実態を把握し、関係職員との情報の共有化を図りながら支援していく。	A		
・いつでも、ゆったりとした気持ちで相談活動ができるよう相談室の環境整備を行う。		A			
・カウンセラーによる教職員研修会を企画する。		B			
進路指導部	健全な進路目標の設定支援に努める。 進路学習の充実を図る。	・進路説明会や講演会、適性検査等をとおして意識の高揚を図る。	A	B	・進学・就職とも WEB での見学・面接への対応を行った。コロナの状況を鑑みて、1・2年生進学希望者にも WEB の積極的な活用を促していきたい。 ・進学・就職とも面接指導を教員全員で取り組めるようご協力を賜りたい。教員の指導技術向上にも繋げたい。 ・1学年の「いばらきキャリア・パスポート」の取り組みを継続したい。 ・HR、授業、学校（特に進路）行事で手帳の活用を充実させたい。
		・最新の情報を職員や生徒・保護者に向け迅速に提供する。	C		
		・課外授業や模擬試験を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	B		
		・小論文や面接指導の充実を図る。	B		
		・手帳を活用し、自己管理能力を育み、学習習慣の定着を図る。	C		
	就職指導の充実を図る。 (キャリア教育の充実)	・就職希望者の保護者への面談（3年）、インターンシップ（2年）、会社見学を実施する。	A		
		・就職ガイダンスや模擬試験をとおして就職試験対策の充実を図る。	A		
		・就職希望者が正社員として就職できるよう、学年の先生方とともに計画・指導を行う。	A		
	キャリア・パスポートの活用を図る。	・ホームルーム活動や学校行事・進路行事をとおして得たもの等を生徒が振り返る機会を設け、生徒自身のキャリア形成に活用できるよう促す。	B		
	関係機関との連携に努める。	・大学、短大、専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、的確な情報収集に努める。	A		

別紙様式 2 (高)

保健厚生部	環境美化や衛生管理に対する意識を高め、豊かな心身を育む学習環境の整備を進める。	・清掃用具を整備して能率が高まるよう配慮し、ゴミ分別の徹底や綿埃、枯葉等の散乱防止を心がけさせ環境美化への意識高揚を目指す。	B	B	清掃の徹底がよくはかられている。 新型コロナウイルス感染対策により、防火避難訓練の実施を見合わせ、急遽、講演会を実施した。 また、薬物防止教室も実施を見合わせ、保健体育の授業でDVDの観賞に切り替えた。 生徒の健康観察に注視し、毎朝の健康観察の入力を行った。
	震災の経験をふまえ、安全確保や危機管理等に関する安全教育を推進する。	・安全衛生委員会と連携し、校内設備環境の安全点検を実施し、安全管理に万全を尽くす。	B		
		・防災避難訓練を実施し、非常時における対応や安全対策に関する知識と意識を高める。	C		
	心身とも健康で、明るく活力のある生活を営む態度の育成を目指し健康教育や学校保健教育の充実を図る。	・学年と連携した保健室運営を展開し、教育相談による心の居場所作りを目指す。	A		
		・学校保健委員会等を通して、生徒の心身の健康状態を把握し、適切な援助と指導を行う。	A		
		・新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症に対し適切な対応を行い、校内での流行を未然に防ぐ対策を講じる。	A		
渉外部	学校、家庭、地域が連携協力できるPTA組織をめざす。	・PTA総会への協力を高める工夫をする。	B	B	PTA関連の行事がほぼ中止となり、諸会議はすべて書面決済で行った。また、同窓会も2回の役員会だけを行い書面決済での承認の上、簡略化した形で同窓会入会式を開催する。情勢が正常化したときに円滑に活動が再開できるよう準備を怠らないようにしたい。
		・学校行事への保護者の参加協力を図る。	B		
		・各種PTA大会や研究協議会をとおして、他校のPTA活動の情報収集に努める。	B		
		・マナーアップ運動など諸行事への保護者・地域住民の参加協力を図る。	B		
	各種委員会活動の活発化を図る。	・広報紙「PTAだより」を発行する。	B		
		・祭礼巡視や立哨指導を効果的に実施する。	B		
		・有意義な研修旅行の実施を図る。	B		
	同窓会との連携を図る。	・同窓会活動へ積極的に協力する。	B		

別紙様式 2 (高)

特別活動部	生徒会活動への支援や生徒会主催の学校行事の充実を図る。	・生徒会本部の定例会を毎週実施し、指導助言をとおして、生徒会役員のリーダーとしての資質の向上を目指す。また、活動内容については昨年度の反省をふまえ、行事の精選や作業の効率化なども検討していく。	A	B	・予期せぬ感染拡大にともない、多くの学校行事を中止することになってしまった。次年度も同様の状況が予想されるなか、生徒たちがより充実した学校生活を送れるよう、新しい形を模索していく必要がある。
		・文化祭・クラスマッチ・予餞会等の企画内容を生徒自らが検討し責任をもって取り組み、達成感を得られるようにする。	B		
	部活動の活性化を図る。	・新入生全員に部活動入部届を配付し、部活動への興味関心を高める。	B		
		・顧問の適材適所への配置、予算の配分を行うとともに、外部指導者活用などの協力体制を整える。	A		
	ボランティア活動・地域活動への積極的参加を図る。	・ボランティア・地域活動の募集に関して、わかりやすい情報提供をおこない、生徒の主体的参加をうながす。	B		
	キャリア・パスポートの活用を図る。	・進路指導部と連携し、キャリア・パスポートへの理解をうながすことで、LHR等での作成・活用を図る。	C		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・制服をきちんと着用し、身だしなみを整えさせる。	A	B	・引き続き欠席・遅刻をさせない指導 ・個別指導による綿密な学習指導の実践 ・支援を必要とする生徒への支援体制の強化（学習面・生活面ともに） ・状況が良くなったら、校外活動に対して積極的な参加を促進
		・言葉遣いに気をつけ、挨拶を的確にできるようにする。	B		
		・時間を守り、規律正しい生活をさせる。	B		
	基礎学力の定着と個に応じた指導の充実を図る。	・毎日の授業に真剣に取り組ませ、学ぶ姿勢を育てる。	B		
		・各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。	B		
	進路目標を設定する。	・自らの志望や適性について意識させ、進路目標を持たせる。 ・情報の提供や面談を通して、進路選択の支援をする。	B		
	活力ある学校生活を送る。	・部活動や生徒会活動、校外活動などへの積極的参加を促す。	C		
第 2 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・服装・身だしなみを整えさせる。	C	B	・特別な支援を必要とする生徒達への支援体制の強化 ・引き続き、基礎学力の定着を図る ・生徒の進路実現への支援
		・欠席・遅刻・早退を無くし、規律正しい生活をさせる。	B		
	基礎学力の向上を図る。	・授業への積極的な取り組みを促す。	B		
		・各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。	B		
		・家庭学習や課外授業を通して、進路実現を意識した学習の取り組みを促す。	B		
	進路指導の充実を図る。	・面談や進路情報の提供を通して、一人ひとりに合った進路選択の支援をする。	B		
		・各種進路行事等の有効活用を図る。	B		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促す。	B		
		・いじめの未然防止に努める。	A		

別紙様式 2 (高)

第 3 学年	進路希望の実現を図る。	・面談やガイダンスを通して、自らの志望や適性について自覚させ目標を持たせる。	B	B	・4・5月の各種ガイダンスや6月の就職希望者面談など実施できなかったものも多く、生徒・保護者との情報共有が例年通りにはできなかった。しかし、学年が団結するとともに、進路指導部や学年以外の先生方の支援もあり、進路実現に向けた指導は一丸となつてできたと思う。協力体制の構築が重要である。
		・面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自らの進路に対して広い視野をもった判断ができるようにさせる。	A		
		・進路指導が円滑に進むように、進路指導部や保護者との連携を密にする。	A		
	基本的生活習慣の定着を図る。	・日常生活を通じて、時間を守ることや挨拶の大切さ、適切な言葉遣いを身につけさせる。	A		
		・服装・身だしなみを整え、最上級生としての行動ができるようにさせる。	A		
		・保護者との連携を大切にし、信頼関係と協力体制の構築に努める。	B		
	基礎学力の向上を図る。	・授業に真剣かつ積極的に関わり、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。	B		
		・家庭学習や課外授業を通して、進路実現を意識した学習の取り組みを実践させる。	B		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促すとともに、下級生の模範となるような態度で臨めるようにさせる。	B		
		・いじめの未然防止に努める。	B		

※ 評価規準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分